

**宮崎日日新聞社賞（中央大会・奨励賞）****無意識の差別をなくしていく未来**

宮崎県立宮崎西高等学校附属中学校 1年

坂口 夏寧

中学生になって、学級の名簿が男女混合のあいうえお順になった。小学校までは、男女別の誕生日順だったので、初めは正直とまどった。これまで、男女別であったことも、誕生日順であったことも、私は、変だと感じたことはないし、立ち止まってなぜそうなっているか考えたことはなかった。

男女混合名簿になったのは、男女平等の観点からだという。男女別の名簿では、大抵が男子が先になっていて、男子が女子より上、つまり優れているという考え方が無意識のうちに当たり前になってしまわないようにということだそう。言われてみれば、なるほどだと思ふ。では、誕生日順ではなぜいけないのだろうか。母に尋ねてみると、「特に小さいうちは、月齢によって成長が大きく違うから誕生日順に並んでいる方が指導しやすかったのかもしれない。でも、それは大人の都合だね。」と話してくれた。

これまで、何十年も使われてきた名簿の順に差別につながるような内容があったこと、そして、私がそのことに何も気づかず、何も思いもせず、当たり前に使っていたことに驚いた。もしかしたら、ほかにも当たり前として受け止めていることや習慣としているものが、あるのかもしれないと思った。それに気づけるような目を持ちたいと思う。そのために、私は、差別は決して許さないという強い心をもって、生活したいと思う。

私には、六才下の弟がいる。ある日、一緒に買い物をしていた時、オレンジ色のTシャツを選んだことがあった。そのとき私は、なんとなく男の子には青や緑が合うと思い、弟にすすめた。しかし、弟は、「だって、この色がきれいだもん。」と迷わずオレンジ色を選んだ。それを見ていて、私は、男の子は青や緑、という偏見を知らず知らずに持っていたことに気がついた。弟は、オレンジのTシャツをうれしそうに着ているし、そのTシャツは、弟にとっても似合っていた。

自分の好きなものや自分がいいと思うものを素直に選び、周りの目を気にせず堂々と身につけたり、持ち歩いたりできる、そんな社会は、だれにとっても、楽に過ごすことができ、居心地がいいと思う。

そんな社会にするために、私ができること。それは、私の近くにいる友だちのいろいろな特長や特性、個性をたくさん見つけて、大切にすることだと思う。もし、友だちの特長、特性、個性をバカにしたり、からかったりする人がいれば、勇気を持って止めたい。そして、その友だちを「大丈夫だよ。

そのままのあなたでいいよ。」とたくさん励ましたいと思う。

一人一人の人権を大切にすること。それは、だれにとっても、安心して、楽しくすごせる社会をつくることにつながると確信している。私も、そんな社会をつくっていく「一人」でありたいと思っている。また、その輪を世界中に広げていきたいと強く思う。